

公開講演会

近世イタリア君主国の常備軍と 軍政システム ー16世紀フェッラーラ公国の事例からー

日時

2019年7月20日(土) 14:00～17:30

会場

戸山キャンパス 33号館低層棟 6階 第11会議室

講演者

白幡 俊輔(京都造形芸術大学非常勤講師)

コメンテーター

斉藤 恵太(京都教育大学准教授)

講演者プロフィール: 京都大学大学院人間・環境学研究科を経て、2010年に博士号を取得(人間・環境学)。専門はルネサンス期のイタリア軍事技術史。著書に『軍事技術者のイタリア・ルネサンスー築城・大砲・理想都市ー』(思文閣出版、2012年)、論文に「16世紀フェッラーラにおける火砲鑄造所の生産活動とその意義ー『火砲帳簿』の分析に基づいて」(西洋史学、第264号、2017年)などがある。現在、京都造形芸術大学非常勤講師、関西学院大学客員研究員。

コメンテータープロフィール: 東京大学大学院人文社会系研究科を経て、2015年にポツダム大学歴史研究所で博士号を取得(Dr.phil.)。専門は近世ドイツの軍隊と社会。主な論文は「近世ドイツの軍隊と査閲ー宿営社会の「人口」把握」(歴史学研究、第977号、2018)など。現在、京都教育大学准教授。

イタリア半島を舞台に、フランス・ヴァロア家とスペイン・ハプスブルク家が衝突したイタリア戦争(1494～1552年)では、同時期に起こった火薬兵器の普及・発達により、兵器のみならず戦術や軍事制度にも大きな変化が現れた。こうした変化は、同時に国家の統治システムや経済制度にも変革をもたらしたとされる(いわゆる「軍事革命」論)。本講演では、北イタリアの君主国フェッラーラ公国が、イタリア戦争中に作成した行政文書を手掛かりに、当時の常備軍制や軍事行政制度を分析し、「軍事革命」論とも関連させつつ君主制の発達や中央集権化について考察する。

§ プログラム §

- | | |
|-------------|--|
| 14:00～14:10 | 開会挨拶 |
| 14:10～15:10 | 講演「近世イタリア君主国の常備軍と軍政システム
ー16世紀フェッラーラ公国の事例から」(白幡俊輔) |
| 15:10～15:30 | 休憩 |
| 15:30～16:00 | コメント(斉藤恵太) |
| 16:00～17:30 | 討論 |

*司会: 谷口眞子(早稲田大学文学学術院)

*共催「軍隊と社会の歴史」研究会、基盤研究(A)「19世紀を中心とした軍事的学知をめぐる人と書物の交錯」

主催・問合せ



WIAS

早稲田大学 高等研究所

入場無料・事前申込不要 直接会場にお越しください。